



動動

平成28年 12月4日発行

第69号

北海道ムーブメント教育研究会会報

本年、8月に開きました夏季講習会の様子をご報告いたします。土曜日にもかかわらず、50名ほどのたくさんのご参加を頂き、急遽会場を体育館に変更しての嬉しい開催となりました。この日は最高気温31度、リオオリンピック開幕日で、まさしく熱気あふれる会となりました。お二人の講師の先生をお招きして、『子どもの心に届く！楽しい表現活動！』というテーマで行われた講習会は、北翔大学の学生さんたちの若さいっぱいコミュニケーションもあり、楽しく活気のある会となりました。

ご参加頂いた皆様には、この場を借りて改めてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

講座1 『音楽療育～保育者を目指す学生との音楽遊び』

講師 伏見 千悦子先生（北翔大学 准教授）

先生は、保育士を目指している大学のゼミ生の皆さんの先生であり、お母さんの存在(?)でもあるのでしょうか…。ゼミ生の皆さんから次々に紹介される手遊びや表現遊びを体験していると、自分が童心にかえったような気分させられました。わらべ歌から醸し出される音楽に合わせて、一緒に手をつないで口ずさみながら輪を作っていくような表現遊びは、大人であっても心温まるものです。このような体験こそ、ゲーム世代の子どもたちに、今、必要とされる遊びなのかもしれない、とあらためて考えさせられた講座内容でした。



講座1 アンケートから

- ・静と動の活動を組み合わせてのテンポがある楽しい遊びに参加できました。その中にリズム、わらべ歌、歌唱を取り入れ、小学校で応用できることがたくさんでした。
- ・学生さん達のがんばっている姿がとても素晴らしかったです。語り口調や笑顔など日頃すっかり忘れていたことを思い出して、またこれから子ども達に笑顔で向かえるように、私も頑張ります。
- ・子どもがすぐ覚えられる歌ばかりでわかりやすかったです。言語面の難しさを抱える子にとっても、良い活動だなと思いました。



講座2 『スキップ&合の手で楽しむ』

～鑑賞の授業と直結！特別支援でも使えるよ！～

講師 高倉 弘光先生（筑波大学附属小学校教諭）

「子どもが『やったあ～！先生、見て見て！聴いて聴いて～！できたよお～。』と言えるような授業を目指しているんです。」という高倉先生。Tシャツに裸足のいでたちで参会者に語る口調は、いつもながらの熱い思いがあふれ出していました。「音楽を聴く」ということからスタートする鑑賞とはひと味ちがう身体を動かしての鑑賞授業です。子どもの動きから鑑賞の音楽的要素を引き出し、学びへと繋げる技を、これからぜひ、実践していきたいと思わずにいられない講座内容でした。

講座2 アンケートから

- ・小学校で体を使って、楽しく共通事項を教える（鑑賞の）授業で、ぜひやってみたいと思いました。
- ・「子どもに笑顔をもっと！」というお言葉に感動しました。楽しい音楽を私もつくっていきたくて強く思いました。
- ・親しみのある曲を使って遊んだり、学習にもっていったりするのは、とても面白いと思いました。また、鑑賞も悩んでいたりで、体を動かしながらできることは、音楽が苦手な子も進んでできると思ったので、ぜひ取り組んでみたいです。

私がやった2つの仕事

研究部 高倉弘光

いつもはこのコラムに音楽のこと、研究のことなど仕事にかかわる話を書いてきた。が、今回はまったく私的なことを書かせていただこうと思う。ご容赦いただきたい。

今年の夏、父が他界した。81歳だった。7年もガンを患ってはいたものの比較的元気な患者で、1年前には夫婦で東京に遊びに来るくらいだった。亡くなる3週間前、東京から旭川へ見舞いに出向いたが、そのときも辛うじてではあるが、私の顔もわかって名前を呼んでくれた。しかし、その父の姿を見て、もう長くはないということも悟った。

そしてそのときはやってきた。不思議なもので、ちゃんと私の仕事のスケジュールを知っていたかのように「ここしかない！」というタイミングだった。1学期の終業式の早朝、危篤の連絡が入り、そのまま逝ってしまった。それから葬儀や諸手続き等で1週間かかった。たまたま、その1週間はもともと旭川に見舞いに行く予定にしていたのだ。それ以降になると仕事がびっちり詰まっていた、もし仕事が立て込んでいるときだったら方々に多大な迷惑をかけることになる。超わがままな親父だったが、最後は息子孝行をしてくれたのかな、とちょっと感心してしまった。

さてその日、支度を整えて慌てて旭川に飛んだわけだが、着いたのは夜遅くだった。幸いにして兄が札幌なので、私が着いた時には葬儀の手筈がすべて整っていた。次男とはなんと楽なことか…。私の仕事は実質ないのである。

いや、私には大きな仕事が2つある。この仕事はかねてから親父が死んだらやってやろうと思っていたことだった。1つは遺影。今から30年以上も前に撮られたいい写真があった。色艶よく、洋服の仕立て屋として脂の一番乗っていた時分の写真。それも近所に住んでいた写真家が、コンクールに出品するために撮ったもので、親父自身も家族も気に入っていた。ちょっと若いけど、あの写真を使おう！ ずっと心に秘めていた。ただ、ネガがない。紙焼きした写真も色あせたり傷んだりしている。そこで、知り合いの別の写真家をお願いして修正をしてもらい、あとで家族がいつでも写真を取り出せるよう、データ化してもらった。実はこの作業は、親父の死の3週間前に手配しておいた（準備がいい！）

もう1つの仕事。それは、通夜と葬儀。そう、人生最期にして最大のセレモニーを音楽で彩ってやることだ。親父は特に音楽が好きだったわけではないが、親父が好きだった音楽、親父が生きた時代の音楽、そして私が父に捧げたい音楽を葬儀会場に流してやりたいと思っていたのだ。「とんがり帽子」や「知床旅情」は父の愛唱歌だ。「上を向いて歩こう」「見上げてごらん夜の星を」などなど昭和の曲を流したり、フォーレのレクイエムなんかも流したりした。何だか、ちゃんと送ってやったぞ！ という気分になった。

葬儀が終わって親戚が実家に集まっていた。叔父が「いやあ、今日の葬儀屋は気が利いていたなあ。いい音楽だった！」と笑った。私が「おじちゃん、俺がやったんだよ…」と言ったら、「そうかあ、お前だったのかあ。じゃ、俺の時も頼むな！」。実家は大笑に包まれた。

(たかくら・ひろみつ 筑波大学附属小学校)

北海道ムーブメント教育研究会

平成28年度・事務局体制

会長	大坂 克之 (あいの里大藤幼稚園長)
事務局 (総務)	細貝 睦 (札幌市立栄町小学校)
事務局 (研究)	上埜 光規 (札幌市立月寒東小学校)
事務局 (会計)	竹内 倫子 (札幌ゆたか幼稚園)
研究担当	高倉 弘光 (筑波大学附属小学校)
	畠山 美砂 (札幌市立伏見小学校)
	田尾 明子 (札幌市立新琴似南小学校)
	齋藤 恭子 (札幌市立幌東小学校)
	石田 晃大 (札幌市立もみじの丘小学校)
	国府 由香利 (美深高等養護学校あいべつ校)

会計担当	西 祐子
	三上 恵 (奈井江町立奈井江小学校)
広報担当	西 宏 (札幌市立篠路小学校)
	織田 暁知 (札幌市立資生館小学校)
	竹浪 恵 (札幌市立新琴似北小学校)
	中村 真紀
会計監査	本間 達志 (札幌市立篠路小学校長)
	塚本 宏美
常任顧問	堀田 吉宏 (北海道教育大学札幌校非常勤講師)
	亀山 比佐 (北翔大学・大学院)

「特別支援学校の窓」

北海道美深高等養護学校あいべつ校・国府 由香利

今年度も秋の町内の音楽発表会が終わりました。年度初めから苦戦させられた学年の皆さんもすっかり心入れ替えて（笑）「証」という合唱曲に取り組んでくれました。三部合唱も素晴らしい仕上がりで、なかなか感動的だったのですが、そのきっかけになった授業がありました。ニューカウンセリングを取り入れた音楽授業、「身体の力を抜く」「天国への階段」。この生徒たちは音楽の授業に対して、意欲が全く感じられなかった学年です。まず表現というものに抵抗感がありました。「やる気だせ〜」と意欲喚起したり、「合唱はやるべきこと」と意義づけしたりしても歌声には繋がりませんでした。「こころ」と「からだ」の解放が課題。

ゆっくりと音楽をかけて身体の力の抜く、心の中で「大丈夫」と呟く。脱力した状態で一人を全員が持ち上げます。そしてシェアリング。「どんな感じ?」「嫌だった?」「気持ちよかった?」ペアでシェアリングしたり、全体で共有したり、話をしない中での活動をする。「誰かに話したい」気持ちが高まります。気持ちを共有すると「そう思っていた自分」がみんなと同じであること、違っていても認められること、居心地の良さとお互いに対する信頼が生まれます。ただ、それだけだったのですが、この後、この学年の歌声は劇的に変わりました。音楽の授業とは、意識の下に隠れた部分へのアプローチを大事に作っていくことだと思います。その部分を思い出させてくれた学年なのでした。ムーブメント音楽教育研究会が謳う「土壌を耕せ」が音楽教科＝全人的な教育に繋がると確信できた出来事でした。

「北海道幼児音楽教育研究会」講習会のお知らせ

日時：1月13日（金）9：30～16：00

会場：本郷幼稚園（〒003-0024 札幌市白石区本郷通6丁目南4-17）

9:00~9:30	受付			
9:30~9:45	開会式			
9:45~11:45	平野次郎先生（筑波大学附属小学校）講演・実技講習会 「低学年の音楽指導で大切にしていること （教科で育てるソーシャルスキル）」 小学校入門期の低学年では、教師が「きっちり」、「しっかり」などの指導ばかりをしてしまいます。学習規律を保つのは大切なことですが、それで失われるものもあります。今回は、低学年の音楽指導を中心に、日頃の授業で大切にしていることをお伝えします。			
11:45~12:45	昼食			
12:45~14:05 分科会（1）	A：音楽科	B：生活科	C：歌	D：鍵盤ハーモニカ
14:15~15:40 分科会（2）	A：畠山 美砂先生 （札幌市立伏見小学校）	B：能登 貴章先生 （札幌市立北陽小学校）	C：大谷 唯先生 （声楽家）	D：大坂 克之先生 （あいの里大藤幼稚園）
15:40~16:00	閉会式			

※分科会は、2回とも同じ内容です。2つ選択して受講することができます。

砂場は子ども達の大好きな遊び場の1つです。固定遊具とは違い年齢や季節によって遊び方は様々です。穴を深く掘ったり、高い山を作ったり、トンネルを掘ったり、水を汲んできて川や池を作ったり、鍋やお皿を使ってご飯を作ったり、何日もかけてどろだんごを作り続ける子もいます。その為、保育者も1人ひとりの遊びとその子の想いに合わせてかかわり方が違ってきます。

例えば、型抜きをして遊んでいた子が「見て！！」と言った時、保育者は ①形がきれいにできた事を喜んでいるのか。②何かに見立てていて、それを共有してほしいのか・・・

① ならば、形の美しさを褒め、より型抜きを楽しむ為に、形の違う型を用意したりより固まる為の方法(水の加減や砂の種類)は何だろう？と問いかけたり、②ならば、よりイメージが広がるよう、必要なモノ(デコレーション)は何か・・・を考え時には一緒に探したりします。

保育者はただ見守るだけでなく、アイデアを提供したり、一緒に試してみたり、ヒントを示したり、年齢や遊びに合わせて道具を用意したり、時には興味もてるような仕掛け作りをします。が実際に遊びを選択し展開していくのは子ども達自身です。子ども達は“やってみよう”を実現させる為に、試行錯誤をしたり、友達と協力し合ったり、時にはぶつかり合ったり・・・など、毎日様々な遊びを繰り広げています。



流れてきたー

「水を流して川作り」



深いよ～見て！

「深く掘る為の剣先スコップ」



おいしょ

どう？

「おおきなバケツで型抜きに挑戦」

平成28年度 冬季講習会開催要項

1. テーマ 「楽しい！おもしろい！ どの子どもでも楽しめる表現活動！」
2. 日時 平成29年1月7日（土）9：00～
3. 場所 札幌市立栄町小学校
〒007-0836 札幌市東区北36条東13丁目3-1 TEL：011-752-4130
(札幌市営地下鉄・東豊線「新道東駅」より徒歩8分)

4. 日程

8：30～	受付
8：55～	開会式
9：00～	講座1 井上 志帆先生（札幌養護学校・教諭） 「動いて音楽を楽しもう！～特別支援の授業を通して～」
10：45～	講座2 高倉 弘光先生（筑波大学附属小学校・教諭） 「これは面白い！『早口言葉』で音楽をつくろう！」
12：30	閉会式

5. 主催者 北海道ムーブメント教育研究会
事務局 札幌市立栄町小学校内（細貝）
〒007-0836 札幌市東区北36条東13丁目3-1 TEL：011-752-4130
6. 後援 札幌市教育委員会（申請中）
7. 参加費 一般3000円、学生2000円
8. 申込み 札幌市立月寒東小学校・上埜光規まで FAX 011-851-1619
<http://hokkaido-movement.jimdo.com/> 「北海道ムーブメント教育研究会」で検索

北海道ムーブメント教育研究会**平成28年度 事務局体制**

会 長	大坂 克之 (あいの里大藤幼稚園長)	研究担当	国府由香利 (美深高等養護学校 あいべつ校)
事務局 (総務)	細貝 睦 (札幌市立栄町小学校)	会計担当	西 祐子
事務局 (研究)	上埜 光則 (札幌市立月寒東小学校)		三上 恵 (奈井江小学校)
事務局 (会計)	竹内 倫子 (札幌ゆたか幼稚園)	広報担当	西 宏 (札幌市立篠路小学校)
研究担当	高倉 弘光 (筑波大学附属小学校)	会計監査	織田 暁知 (札幌資生館小学校)
	石田 晃大 (札幌市立もみじが丘小学校)		本間 達志 (札幌篠路小学校長)
	畠山 美砂 (札幌市立伏見小学校)	常任顧問	塚本 宏美
	田尾 明子 (札幌市立新琴似南小学校)		堀田 吉宏 (北海道教育大学 札幌校非常勤講師)
	斉藤 恭子 (札幌市立幌東小学校)		亀山 比佐 (北翔大学 大学院)
	竹浪 恵 (札幌市立新琴似北小学校)		